

アメリカ村『新しい息吹の集まるまち』①【1985年前後】

80年代中盤のアメリカ村には、様々なコミュニティが存在していた。音楽/ファッション/アート/カフェなど個人の嗜好でつながるそれぞれのコミュニティは、複雑に連鎖しつつ、世界と共振していた。まさに新しい息吹の百花繚乱。



- 音楽
- ファッション
- アート
- カフェ
- ショップ/レストラン
- その他



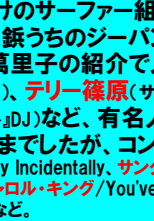
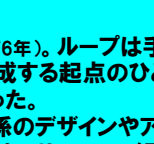
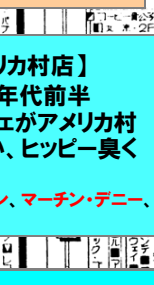
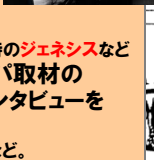
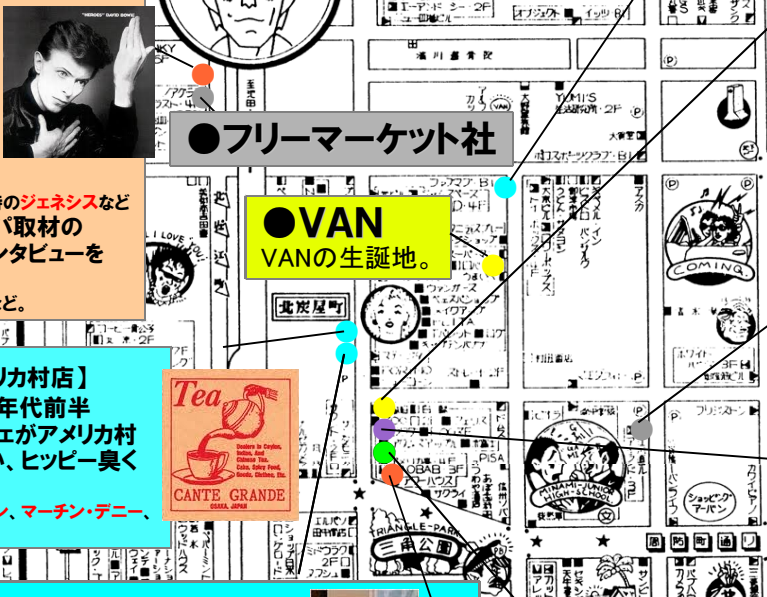
周防町より 北側エリア



フリーマーケット社

●VAN

VANの生誕地。



●ROCK MAGAZINE【ロック・マガジン】
阿木譲が1976年に創刊し、創刊時と1981~1982年頃、事務所がアメリカ村にあった音楽雑誌。海外のニュー・ウェーブ~オルタナティブの最先端を日本に広めた。
※ポップ・グループ、スロウ・ダンス・グループ、ジョイ・ディヴィジョン、オムニバス「No New York」など
「テクノポップ」という造語を初めて使ったことが有名。ブライアン・イーノのロキシー・ミュージック以降の活躍を広めたのもこの雑誌。表紙を担当したアーティストは、合田佐和子(状況劇場や天井桟敷の宣伝・舞台美術)、鋤田正義(デヴィッド・ボウイ「Heroes」のジャケット写真)、アヒム・デュボウ(ラ・デュッセルドルフのロゴ制作)など。KBS京都のテレビ番組「ポップス・イン・ピクチャー」で阿木譲はコーナーを担当し、当時珍しかった海外アーティストのプロモーション・ビデオを紹介
※ティン・ポプやフライング・リザーズ、クラフトワーク、ピーター・ダブリエル在籍時のジェネシスなど
バームでは、様々なイベントを実施。1981年にはヨーロッパ取材のレポートを報告。独・仏・英などの最新音楽とアーティスト・インタビューをビデオで紹介した。
※ドイツのニュー・ウェーブであるD.A.F.、ディ・クルップス、デア・プラン、SYPHなど。

●CANTE GRANDE【カンテグランデ アメリカ村店】
1985年、ロンコート2Fにオープンしたエスニック・カフェ。80年代前半のエスニック・ブームの盛り上がりを受けて、中津本店のカフェがアメリカ村にも進出。ロンドンでのエスニックのニュー・ウェーブ化に伴い、ヒッピー臭くなくカフェがおしゃれスポットになった。
★BGMイメージ 1982年のロンドンから流行ったシーラ・チャンドラの「モンスーン、マーチン・デニー、ウォーター・メロン」など。

●LOOP【ループ】
1969年に日隈萬里子がお主人とオープンした喫茶店(~1976年)。ループは手作りのインテリアで飾られた小さな喫茶店だったが、アメリカ村を形成する起点のひとつとなった。アメリカ村という名前のない頃に、いろいろな遊び人が集まった。近くにあった石津謙介のVANのアイビー社員たちや、その関係のデザインやアパレル関係のお客さんはビューティフル組と言われ、波乗りや泥だらけのサーファー組と対照的だった。またヒッピーのような音楽関係もいて、ピースマークと鉾うち組のジープが似合うカフェだったそう。アルバイト店員の中には間寛平がいて、吉本興業には日隈萬里子の紹介が入った。常連客は、上田正樹(ミュージシャン)、黒田征太郎(イラストレーター)、テリー篠原(サーファー)、マーキー谷口(DJ)、白藤丈二(音楽評論家、元レコード大賞審査員、ラジオ関西「電話リクエスト」DJ)など、有名人多数。ローリング・ストーンズの来日公演時には、「ループご一行様」で観光バスをチャーターまでしたが、コンサートは中止になった。
★よくかかっていた曲 ドアーズ/Light My Fire、フェイス/Ooh La La、Cindy Incidentally、サンタナ/Black Magic Woman、ホワイト・ハード/It's a beautiful day、ジョン・レノン/Give Peace a Chance、キャロル・キング/You've Got a Friend、シカゴ/If You Leave Me Now、ジャクソン・ブラウン/The Load-Out~Stay、など。

●FABMAB【ファブマブ】
1982年頃にオープンしたカフェバー。テクノでクールな内装が人気になった。YMOのメンバーも来店。世の中、MTVなどでのオンエアでプロモーション・ビデオが全盛となり、お店では盛んに最新のプロモが流されていた。一般的なカフェバーでは、シャレードのようなスタイリッシュな音楽が人気だったが、ここではニュー・ウェーブ~オルタナティブな音楽が主流。阿木譲がよく来店していた影響。

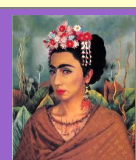
●666
1983年オープンのパンクファッション/レザージャケット専門店。ロンドンを中心に、イギリスから直接買い付けた商品を販売。ドクター・マーティン・ブーツ、ウェンディーズのスタッデッド・ギアなどが人気商品に。ワールズ・エンド、ジョンソンズ、ロボット、BOY、ラスト・リゾートの商品も取り扱っていた。ロンドンで取材してきたパンク・ギグのライブ映像をからめたD.J.イベントなども行い、音楽シーンを通してリアルなロンドンの最先端の流行を紹介していた。



●プレイガイドジャーナル
日本で最初の情報誌と言われ、70~80年代の関西のサブカルチャーに大きな影響を与えた1971年創刊の情報誌。1975年~1980年、西清水町の江川直ビルに事務所があった。



●Gallery [vju:]【ギャラリー・ビュウ】
画廊的なスノッパさはなく、若手の小作品を気軽に観れるギャラリー。ARTカレンダーに作品が取り上げられた若手は、森村泰昌、田中容子、松井智恵など、現在、大阪を代表するアーティストに。



●無印良品
1983年10月にオープンし、ホテル日航とともに、アメリカ村に全国ブランドがやってきたと話題になる。チェッカーズも手がけていたスーパー・エディターの秋山道男がプロデュース。糸井重里が書いた西武百貨店の「不思議、大好き。」(1982)、「おいしい生活」(1983)に象徴されるセゾンの大阪攻略と受け止められた。かつてアメリカ村で遊んでいた若者が、ニュー・ファミリー化し、家族とともに無印に戻ってくる現象がよく見られた。



●BAOBAB【バオバブ】
1983年にオープンしたレンタル・レコード店。徐々に輸入盤に移行し、ザイル(現コンゴ)などのアフリカン・ミュージックに強い。パパ・ウェンバとも親交がある。



アメリカ村『新しい息吹の集まるまち』②【1985年前後】

80年代中盤のアメリカ村には、音楽を核にして様々なコミュニティが存在していた。それはカフェでお茶したり、ディスコで踊ったり、ライブを楽しんだり、レコードを買ったりと、様々な形で80年代以降のライフスタイルを生み出していった。

- 音楽
- ファッション
- アート
- カフェ
- ショップ/レストラン
- その他

●Palms【パームス】

1978年に日隈萬里子がオープンした地下のディスコ。1979年の年末にはビル全体をパームスとして、地下のディスコ以外に、1階カフェ、2階バー、そして3階にはポディニクのスペースを設けた。その名のとおり、トロピカルムード溢れたパーム・ツリーが生い茂り、高くとった天井と窓が大きく開いたユニークな空間が人気を集めた。とにかくおしゃれ好きが集まるお店だったが、サーファーなどの遊び人から、次第に市民権を得てきたモデルやスタイリストなどの業界人、そして「カラス族」という名を生み出したDCブランド全盛期ならではの、マヌカンやマヌ男(DCブランドショップの店員)に客層が時代とともに変化していった。カフェのテーブルには、足踏みミシンが使用され、テーブルサッカーもあった。そして、当時は珍しいビデオプロジェクターも装備。イーグルス/Hotel Californiaがよく流れていた。地下のディスコは1980年にリニューアルされ、ニュー・ウェーブ、オルタナティブ路線に突っ走る。現在のクラブという概念を日本で開花させたのはここ。このパームスから数々の有名DJを輩出したが、京都のカリスマ、EP-4の佐藤 薫や、天宮志狼がその代表格。カフェには、イベントやプロモーターが海外のアーティストをよく連れてきた。クラフトワーク、ジョン・ライオン(PIL)、ジョー・ストラマー(クラッシュ)、スージー&ザ・バンシーズなど。日本のミュージシャンでは、桑名正博やもんたよしのりが常連客。また、あのウォーキング・ドクター、デューク更家も働いていた。



周防町より南側エリア ＜音楽/ディスコ/カフェ＞

●三角公園 (正式には「御津公園」)

ミュージシャンやアーティストなど若者のパフォーマンスイベントが催されるなど、大阪一有名な街区公園。1980年、AORのソングライター、ディック・セント・ニコラウスが関西限定発売でヒットした「Magic」のお礼&プロモーションで来阪。三角公園で植樹祭を行なった。1984年のアメリカ村カーニバルで行なわれたファッション・コンテストに、三代目魚武濱田成夫が参加。しかし、できすぎているファッションのため、2位に。優勝は新聞紙で身体をくるんだアナーキーな男性に奪われた。



●KINGKONG【キングコング】

1979年にオープンした大阪初の中古レコード店。同じビル内にワールド・ミュージックや日本のインディーズものなどの専門店を何店もオープン。ワールド・ミュージック専門店「ランゲーン」(1984年)には、ビル・ラズウェルが来店し、アジアンポップスのカセットを買っていった。S.O.BのNAOTOが店長を務めたスラッシュ&スケボー専門店「ヴァイオレント・グラインド」(1984年オープン)には、ビル・ラズウェルと一緒にきたジョン・ソーンが、息子さんがファンとのことでNAOTOにサインをねだった。1988年にオープンしたインディーズ専門店「Giga」は、キングコングで扱っていたインディーズものが軌道に乗り、専門店として独立。ラフィンノーズは、メンバー自ら納品書を持ってレコードを置いていき、ポアダムスの山塚アイのテープはすべて取り扱うなど、大阪インディーズ界のメッカとなった。その他に、アメリカ買付専門店の「キングコングUSA」もある。1987年には、扇町ミュージアムスクエアで元アート・サリーのPHEWのコンサートを開催。ソウル・フラワー・ユニオンの中川敬もかつてバイトしていた。



●NEST SALOON【ネスト・サルーン】

ブルースが似合うアメリカン・バー。ライブもよくやっていた。桑名正博・晴子兄妹など大阪らしいアーティストがライブだけでなく、よく呑んでいた店。ポイント・アフターの梅ちゃんが経営していた。ウッディーな内装は、サーファー・ブーム時代のアメリカ村の名所。



●POINT AFTER【ポイント・アフター】

1978年オープンのディスコ(~1983年)。サーファーものやブラック、AORといった大阪ミナミらしいディスコ・テイストの他に、ソフト・ロックやレゲエなどオール・ジャンルの選曲が、ジジックやマハラジャとは一線を画していた。

★選曲イメージ: ビーター・フランプトン/Show Me The Way、ザ・クルセイダース/Spiral、

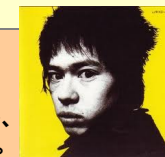
ボブ・マーリー&ザ・ウェイラース/I Shot the Sheriff、桑名正博/夜の海、などスタッフでは、ラーク&ケント兄弟が有名。独特なDJトークのスタイルは、ケントから全国に広がり、その後、ジジックやマハラジャでもメインDJを務めた。※ラークは昭和天皇にフレンチを作った経歴もあり、後に四ツ橋で「鈴屋」という創作料理店で有名になる。



●BAHAMA【バハマ】

1963年オープンの老舗ライブハウス。ハードロック・ヘヴィメタルのメッカとして知られたが、1979年頃はバンクのINUやアート・サリーも出演。※INUの町田町蔵は現在、芥川賞作家の町田康。

★過去のレギュラーバンド: アースシェイカー、44マグナム、マリノ、SHAZNA、すかんち、他



アメリカ村『新しい息吹の集まるまち』③【1985年前後】

80年代中盤のアメリカ村には、ファッションやアートの新しい息吹もあった。パリやロンドン、ニューヨークなどといった世界各地と共振していた。

- 音楽
- ファッション
- アート
- カフェ
- ショップ/レストラン
- その他

●NOUNOUCHE

【ヌヌシュ】
フレンチ・インポートのセレクトショップ。
元祖ストーンウォッシュレザーの
シャルル・シェビニオンの商品が有名。
ダルチザンはとんがっているが、
ヌヌシュは高級感でと、
客層は分かれていた。
後に代官山にも出店。



周防町より南側エリア ＜ファッション/アート＞

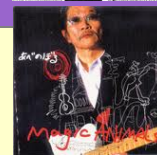
●気分屋雑貨店

1984年に道頓堀のマリアテレサがオープンした雑貨店。
アーミーやグラム、バンクなど、ぶっ飛びの最先端
ファッションを扱い、セレクトショップの走りとして
有名だったマリアテレサらしく、新感覚の雑貨で
あふれていた。
オーナーの平井康祐は、オリジナルブランドの
マリアテレサクラブを立ち上げるとともに、
アパレルメーカー団体「大阪マンションメーカーユニオン」を
結成し、マンションメーカー界の活性化に尽力した。



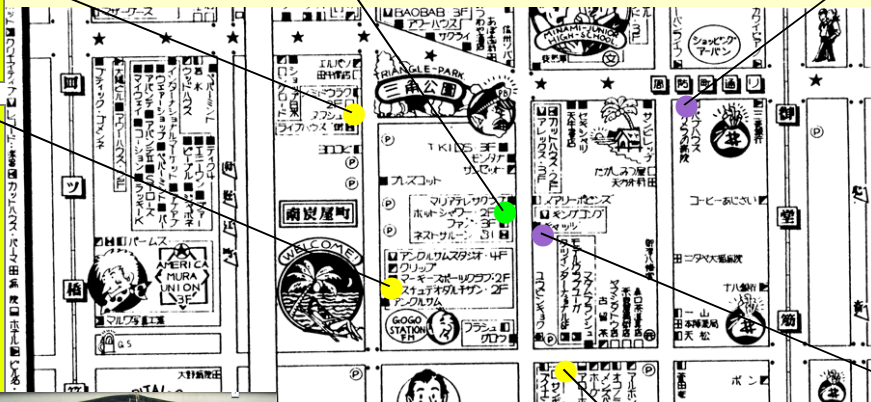
●壁画

1983年9月に黒田征太郎がペインティングした
「PEACE ON EARTH」。アメリカ村の新しい
シンボルマークになった。
大阪の音楽業界一有名なプロデューサー、
阿部登が現場を仕切り、藤井裕
(THE VOICE&RHYTHMのベースist)が現場監督を
務め、K2のメンバーも東京
から来阪。誰がカバやねん
ロックンロールショーの
Donメグ(ベース)も
最終日に駆けつけた。



●STUDIO D'ARTISAN

【ステュディオ・ダルチザン】
1979年オープンしたフレンチ・インポートのブティック。
ミシン・メーカーと言われるパリの小さなメーカーの
アーティスト的な服が並んでいた。
オーナーの田垣繁晴はかつてパリで、
ピエール・カルダンとカステル・バジャックの元、
デザイナーを務める。
店名には「職人工房」というジーンズ作りへの
熱い思いがこめられ、日本でも本格的なデニムを
作るビンテージメーカーとしては草分け的な存在の
ブランド。
ビンテージジーンズ界で「OSAKA 5」と言われる
5人の一人。
※田垣繁晴(1982年 ステュディオ・ダルチザン)、
林 芳通(1988年 ドゥニーム)、
山根英彦(1991年 エビス)、辻田道明(1992年 フルカウト)、
塩谷兄弟(1995年 ウエアハウス)>



●DEP'T【デプト】

キタの神山町で古着のメッカとして
有名だったデプトが1985年、
サンボウル地下にミナミ店をオープン。
カセットマガジンの「TRA」と
コラボレーションしてライブ
「デプトラ」を開催する。
ショコラータやミュート・ビート、
ワールド・フェイス・マインド・
ボーイズのライブは、
アメリカ村に東京のおしゃれ
感を持ち込んだ。
※TRA: 式田純が1982年、
伊島薫とミック板谷とともに刊行。



●FAYRAY【フェイレイ】

キングコングがビルの1Fで1983年に
オープンしたアートスペース。
滋谷守ディレクションにより、既存のギャラリー
にはない若手アーティストの展示会や
ビデオ上映会などを行なう。
スクリーミング・マッド・ジョージ展覧会
(SFXアート)、ドクメンタ・ビデオショー
(ドイツでのコンテンツラリー・アートのオリピック)、
ナム・ジュン・バイク・ビデオ展、
ドイツ表現主義映画上映会、など。
1983年、サンボウル地下で若手アーティストの
総合芸術祭「アート・アート '83」を開催。
絵画、写真、ビデオ、音楽、パフォーマンスなど、
新感覚のアートがあふれた。
※出品者の萩原敬則は1989年、日本グラフィック展大賞
受賞、佐野元春「ナポレオンファッションと泳ぐ日」の
ジャケットにイラストが採用される。

